

## 循環器内科

### ■ スタッフ

科長		土肥 薫
副科長		栗田 泰郎
医師	常 勤	7 名
	併 任	10 名
	非常勤	10 名

### ■ 診療科の特色・診療対象疾患

循環器内科では、狭心症・心筋梗塞、心不全、心筋症、心臓弁膜症、不整脈、肺高血圧症、深部静脈血栓症・肺血栓塞栓症、大動脈・末梢動脈疾患、成人先天性心疾患、生活習慣病など、循環器領域のあらゆる疾患に対する治療を行っています。

#### 1. 当科で扱う疾患

##### 1) 虚血性心疾患（狭心症・心筋梗塞）

カテーテルインターベンション治療、薬物療法による動脈硬化リスク因子の治療と再発予防、心臓CT・MRI・RI 検査や血管内超音波検査等(IVUS)・光干渉断層撮影(OCT)、近赤外線分光法血管内超音波検査(NIRS-IVUS)による画像診断を行っています。そして、最新のFFR-CT、FFR-angioなどで非侵襲的に狭心症を診断します。さらに、Coroflow systemを用いて冠微小循環障害、微小循環狭心症の診断も行っております。また、高度石灰化病変、慢性閉塞性病変などの複雑冠動脈病変に対しても積極的に治療を行っております。

##### 2) 不整脈

心臓電気生理学的検査による診断と各種頻脈性不整脈に対するカテーテルアブレーション治療、埋込型除細動器(ICD)植え込み術、ペースメーカー植え込み術、レーザーを用いたリード抜去手術、抗不整脈薬による薬物療法を行っています。ペースメーカー、ICD等植え込みデバイスについて、遠隔モニタリングを積極的に取り入れてデバイス管理を行っております。

##### 3) 心不全、心臓弁膜症

心臓超音波検査、心臓CT・MRI 検査等による診断と各種薬物治療、両室ペーシングによる難治性心不全の治療、重症心不全に対する補助循環用ポンプカテーテル治療 (Impella)、心臓リハビリテーションを行っています。また、カテーテルを用いた重症大動脈弁狭窄に対する大動脈弁置換術(TAVI)、重症僧帽弁閉鎖不全症に対する僧帽弁クリップ術

(MitraClip®)を行っています。植込型補助人工心臓(LVAD)管理施設に認定されており、LVAD 外来も開設しています。

##### 4) 肺高血圧症、深部静脈血栓症・肺血栓塞栓症（エコノミークラス症候群）

下大静脈フィルター留置術、カテーテル血栓溶解療法、経皮的肺動脈バルーン拡張術(BPA)、肺血管拡張薬持続静注/皮下注療法を行っています。

##### 5) 末梢動脈疾患

重症虚血肢に対する血管拡張術を行っています。

##### 6) 成人先天性心疾患

他診療科と密な連携をとり、心臓カテーテル検査、心臓CT、MRIなどの専門的な検査・診断と、心不全・不整脈などの治療を行っています。卵円孔開存(PFO)閉鎖術も行っております。

##### 7) 生活習慣病

高血圧症、脂質異常症、糖尿病、メタボリック症候群などの生活習慣病は、動脈硬化の危険因子です。生活習慣病進展に伴い脳卒中、虚血性心疾患、閉塞性動脈硬化症などの疾患が発症します。動脈硬化進展予防のため、生活習慣病の治療を行っています。

##### 8) 治療抵抗性高血圧症・二次性高血圧症

二次性高血圧症、特に原発性アルドステロン症の診断、治療を積極的に行っています。

以上のような疾患を取り扱っています。種々の疾患に対応するため、救命救急科、心臓血管外科、放射線診断科、小児循環器科、糖尿病・内分泌内科、血管ハートセンターなどと密に連絡を取り合っております。急性冠症候群に対しては、消防との連携による12誘導心電図の伝送システムを用いて、より迅速な対応を目指しています。また、大学病院内に設置されているCCUネットワーク支援センターが、三重県下の総合病院、医師会、消防、三重県と連携を取り合っておりデータを収集し、急性冠症候群に対する救急医療体制の強化を進めています。

#### 2. 得意とする分野

- 狭心症・心筋梗塞に対する薬物治療・カテーテルインターベンション治療
- 重症僧帽弁閉鎖不全症に対する経皮的僧帽弁クリップ術 (MitraClip®)
- 左心耳閉鎖術 (Watchman®)
- 卵円孔開存(PFO)閉鎖術
- 重症大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル大動脈弁治療(TAVI)

- 不整脈に対する薬物治療・カテーテルアブレーション治療・ペースメーカー植え込み術、レーザーを用いたリード抜去手術
- 重症心不全・難治性心不全の診断と治療
- 肺高血圧症・深部静脈血栓症・肺血栓塞栓症に対する最先端の診断と治療
- 末梢動脈疾患の診断とカテーテル治療
- 治療抵抗性高血圧症の診断と治療

### 3. 検査

心臓・血管超音波検査、負荷心電図検査、ホルター心電図検査、血圧脈波検査（ABI）、空気脈波検査（APG）、経皮酸素分圧測定(tcpO2)、心臓核医学検査、肺換気・血流シンチグラム、心臓カテーテル検査、血管造影検査、血管内超音波検査、光干渉断層検査（OCT）、近赤外線分光法血管内超音波検査(NIRS-IVUS)血管内視鏡検査、FFR-CT、FFR-angio、心臓電気生理学的検査、自由行動下血圧測定、空気脈波法

### 4. 医療機器

超音波装置、心臓 MRI、血管三次元 CT、心臓核医学装置、心臓 PET、血管造影装置、血管内超音波（IVUS）、OCT システム、近赤外線分光法血管内超音波検査(NIRS-IVUS)、冠血流予備量比（FFR）測定装置、高周波カテーテルアブレーション装置、CARTO マッピングシステム（心腔内三次元立体画像診断装置）、EP Navigator、冷凍凝固アブレーション装置、高速回転冠動脈アテレクトミーデバイス（Rotational Coronary Atherectomy）、方向性冠動脈アテレクトミー（DCA）、デバイス、エキシマレーザー血管形成装置、エキシマレーザー心内リード抜去システム、補助循環用ポンプカテーテル（Impella）、IVL(血管内石灰化破碎術)システム。

#### ■ 当科スタッフの取得専門医

日本循環器学会循環器専門医、日本内科学会総合内科専門医(以上はほとんどのスタッフが取得しています)、日本高血圧学会高血圧専門医、日本心血管インターベンション治療学会心血管インターベンション専門医、日本不整脈心電学会不整脈専門医、日本動脈硬化学会動脈硬化専門医、日本脈管学会脈管専門医、超音波専門医、超音波指導医など。

#### ■ 診療実績

2021 年以降の循環器領域の検査・治療件数の推移。

表 1 検査

年代	2021 年	2022 年	2023 年
冠動脈造影検査	367	362	349

心筋生検	64	71	63
心臓電気生理学的検査	3	16	11
経胸壁心エコー	6063	5872	6632
経食道心エコー	358	194	497
ホルター心電図	446	401	476
トレッドミル	36	39	19
心肺運動負荷検査	85	97	100
冠動脈 CT	573	560	667
心臓 MRI	426	419	312
アルドステロン症負荷検査	27	23	26

表 2 治療

年代	2021 年	2022 年	2023 年
経皮的冠動脈形成術	278	263	263
ロータブレーター	39	22	26
補助循環用ポンプカテーテル	7	16	6
経カテーテル大動脈弁治療	44	62	60
経カテーテル僧帽弁クリップ術	-	24	26
卵円孔開閉閉鎖術	2	3	5
左心耳閉鎖術	-	-	12
カテーテルアブレーション	175	212	193
ペースメーカー植え込み術	25	37	29
ICD 植え込み術	14	16	12
CRT-D, CRT-P 植え込み術	13	7	18
リード抜去手術	7	5	10
下大静脈フィルター	19	14	22
経皮的肺動脈バルーン拡張術	20	22	14
末梢動脈疾患血管内治療	159	144	155

CRT-D、除細動機能付き心臓再同期療法; CRP-P、心臓再同期療法; ICD、埋込型除細動器

#### ■ 臨床研究等の実績

##### 1) 心筋虚血・末梢動脈疾患

急性冠症候群に関して、県内の基幹病院と連携して救急診療体制の構築と診療情報のネットワーク化（レジストリー事業）を行っております。2013 年より 2022 年 12 月まで累計で 7893 例の急性冠症候群患者が登録されました。これらのデータを用いて、地方圏と首都圏での急性心筋梗塞診療実態の違いなどの詳細を検討し、三重県における ACS 診療レベルの向上に寄与するとともに、その結果を国内外の学会で多数報告しております。2023 年には病院前バイタルサインを用いた心筋梗塞患者のリスクの層別化に関する報告しております。(Keishi Moriwaki et al, CJ 87:639,2023) また、特殊な冠動脈炎の症例も発表しております。(Takasaki et al, JACC Case Rep

15:102102,2023)

## 2) 不整脈

当院では心房細動アブレーションを行った患者の背景や因子を比較検討することで臨床への応用などを試みています。

またペースメーカー、ICD その他の植込みデバイスに対する遠隔モニタリングを用いたデバイス管理を積極的に診療に取り入れており、心室性・上室性不整脈の早期発見、早期介入、また心不全悪化に対する早期介入に取り組んでおります。この遠隔モニタリングを用いた心血管イベント予測のための前向き観察研究を、多施設共同研究として行っております。

## 3) 心不全・心機能

侵襲的検査法である心臓カテーテル検査、心筋生検所見と、非侵襲的検査法である心臓超音波検査や心臓MRI・CT検査とを比較検討することで、左室・右室機能と心筋性状との関連および病態解明をめざしています。心不全や弁膜症の併存疾患との関連についても臨床研究の活動を広げております。臨床研究としては、AMEDに採択された事業として、産学共同で開発した心不全管理アプリを用いて心不全患者の再入院予防効果を検証しはじめ、また、ACS患者に対するリモート運動指導機能付アプリの効果を多施設共同試験で検討予定です。また、HFrEF患者に対するARNIの心臓MRIパラメーターへの影響や、国内におけるCOVID-19ワクチン関連心筋炎の病理組織的な検討も多施設共同研究として行っています。学術報告としては、II群の肺高血圧患者において、Rho-kinase inhibitorであるファスジルの効果を報告しました (Ishiyama, et al. JACC Heart Fail 12:409-411. 基礎研究としては、左室拡張障害に対する脱細胞化細胞外マトリックスによる物理特性の影響の検討の解明などに取り組んでいます。

## 4) 肺循環・静脈血栓症

肺高血圧症分野では運動負荷および生食負荷右心カテーテル検査等を用い、病態ならびに予後の解明や診断法の確立を目標として臨床研究に取り組んでおります。また静脈血栓症分野では、診断スクリーニング法の開発、抗凝固療法の最適化、カテーテル血栓溶解療法および静脈ステント留置法の確立を目指して臨床研究に取り組んでおります。さらに多くの多施設観察研究に参加することで、国内のエビデンスの創出を目指しており、最近では国内COVID-19患者の感染症重症度および血栓症発生頻度における肥満の影響について調査解析し、論文報告をしました (Ogihara. Y. J Cardiol. 2023; 81: 105-110)。

## 5) 高血圧・心血管リスク

関連病院や開業医の方々と協力して、種々の臨床

研究を行っています。特に2次性高血圧症や治療抵抗性高血圧症の診断と加療を重視しています。糖尿病・内分泌内科、放射線IVR科、泌尿器外科と協力して、原発性アルドステロン症の前向き登録研究 (The Secondary Hypertension Registry Investigation in Mie Prefecture : SHRIMP 研究) を行っています。その中で、アルドステロン症の負荷検査の予測因子と、亜型診断のためのカットオフ値を明らかにし、更なる検討を進めております。

## ■ 研究業績

Edoxaban for 12 Months Versus 3 Months in Cancer Patients With Isolated Distal Deep Vein Thrombosis, Yugo Yamashita, Yoshito Ogihara, Kaoru Dohi et al, Circulation 148:1665,2023. Effects of a Rho-Kinase Inhibitor in Patients With Pulmonary Hypertension Due to Left Heart Disease, Masaki Ishiyama et al, JACC Heart Fail 12:409,2024. Long-term Consequence of Mediastinal Radiation Therapy for Thymoma on Cardiovascular System Confirmed by Cardiovascular Imaging, Hana Mizutani et al, Circ Cardiovasc Imaging 16:e015653,2023. Unique Case of Coronary Artery Rupture and Acute Myocardial Infarction Triggered by a Karate Punch: Evaluation of the Hit Site by CT Imaging, Yosuke Kirii et al, Circ Cardiovasc Imaging:e016343,2024. Fragility and long-term clinical outcomes in patients with venous thromboembolism receiving direct oral anticoagulants, Yoshito Ogihara et al, Thromb Res:191,2024. Myocardial extracellular volume in the longitudinal assessment of amyloid burden: a case for caution, Shiro Nakamori et al, EHJ CV Imaging 24:e91,2023. Unilateral renal artery spasm complicating hypertensive emergency in a patient with secondary aldosteronism, Hiroki Mori et al, EHJ CV Imaging, 2024. Myosin Light Chain Phosphatase Plays an Important Role in Cardiac Fibrosis in a Model of Mineralocorticoid Receptor-Associated Hypertension, Zhe Ye et al, JAHA 13:e032828,2024. Prognostic Impact of Prehospital Simple Risk Index in Patients With ST-Elevation Myocardial Infarction, Keishi Moriwaki et al, CJ 87:639,2023. The cardiac computed tomography-derived extracellular volume fraction predicts patient outcomes and left ventricular mass reductions after transcatheter aortic valve implantation for aortic stenosis, Masaki Ishiyama et al, J Cardiol 81:476,2023. Plaque characterization of a saphenous vein graft by near-infrared spectroscopy and histopathology in a patient with a percutaneous coronary intervention, Hiroki Mori et al, CCI 101:1071,2023. Isolated Coronary Arteritis Treated With FDG-PET/CT-Guided Immunosuppressant to Break the Vicious Cycle of In-Stent Restenosis. Akihiro Takasaki, Tairo Kuirta, Kaoru Dohi, JACC Case Rep 15:102102,2023.

<https://www.hosp.mie-u.ac.jp/section/junkanki/>